

2020年5月11日
 千代田化工建設株式会社
 IR・広報・CSR部

2020年3月期本決算説明会(電話会議)質疑応答要旨 (2020年5月8日開催)

2020年5月8日に開催致しました2020年3月期本決算説明会(電話会議)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

	質問	回答
1	<原油価格の動向> 原油価格の動向を中長期的にどう見ているか。	原油価格の動向は保守的に見て今後の計画を立てている。原油需給バランスの変化や新型コロナウイルス感染症拡大の影響による社会の仕組みの変化の可能性がある一方、発展途上国における原油需要は依然として底堅く、様々な要因が複雑に絡み合っていると考えている。
2	<事業環境の変化> 原油価格下落や新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、顧客のスタンス、受注・競争環境に変化や影響はあるか。	原油価格下落や新型コロナウイルス感染症拡大の影響については現在慎重に見極めているが、今のところ、当社が見込んでいる受注計画には大きな変更はない。 LNG案件など投資計画の見直しが進められているので、競争環境は厳しくなっている。 顧客とのコミュニケーションは従来通り行っており、永年の信頼関係を維持している。
3	<米国 LNG 案件の状況> 昨年度の赤字決算の大きな原因であった米国 LNG 案件について今後の影響はどうか？	2020年3月期は既存案件の確実な遂行を最優先として、リスク管理を徹底、人材投入も強化して取り組んできた。 キャメロン LNG 案件については、第1・2系列は商業運転を開始済みで、第3系列も間もなく完工する見通し。契約条件の改定によるインセンティブの獲得も出来、損益も改善している。

	質問	回答
4	<p><損益> 2020年3月期決算における一過性利益の貢献はどの程度か。</p>	<p>インセンティブ他のスポット収益(プラス要因)、新型コロナウイルス感染症拡大の影響他のリスク引当額(マイナス要因)等を除いたベースでは、期初計画の完工総利益率7.4%をほぼ確保出来ている。</p>
5	<p><遂行中案件の状況> 新型コロナウイルス感染症拡大の遂行中案件への影響はどうか。</p>	<p>案件の遂行が止まっている、ないしは、中止になっている案件はない。</p> <p>EPC業務について、設計(E)はテレワークで対応している。調達(P)は世界的なサプライチェーンの断絶の影響を受けて、案件によっては、資材の製作、調達、輸送の遅れが発生している。建設(C)については、案件によっては、ワーカーの動員に懸念が出ている。</p> <p>これらの問題についてはフォースマジュールの枠組みに沿って顧客と協議中である。</p> <p>また、弊社の遂行プロジェクトは各々の国で重要インフラを扱うという観点からプライオリティの認定を受けており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、人の移動に制限がある中でも、ここ1-2か月は要員を確保しながら対応出来ている。</p>
6	<p><受注見通し・案件> 今後の受注見通し、案件はどうか。</p>	<p>大型案件ではカタール LNG 拡張案件などを取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で FID 時期が後ろ倒しになっているが、案件の実現には問題ないと判断している。さらに、国内地球環境ビジネス分野の案件を収益のベースロードとして確保していく。これらにより、本年度の受注をきちんと積み上げていく。</p>
7	<p><デジタルトランスフォーメーション> EFEXIS ブランドは外販を意識していると思うが、千代田の強みは？</p>	<p>EFEXISは弊社のデジタル商品を外販するためのブランド名。弊社は総合エンジニアリング会社としてプラントを建設し全体をトータルマネジメントする</p>

	質問	回答
		知見を有していることが強みであり、弊社の知見と顧客の操業・保守のノウハウを組み合わせること で、プラントの効率性を高めることが出来る。
8	<p>＜水素事業＞ スペラ水素について、ブルネイから川崎への輸送実証プラントの状況は？</p>	<p>国際的大規模サプライチェーンの実証プロジェクトについては、既にブルネイでの水素化プラント、川崎の脱水素プラントとも完成しており、一部スペラ水素はコンテナで運ばれ川崎に到着している。川崎の脱水素プラントでスペラ水素を気体に戻し、隣接する発電プラントへの供給を今月開始する。</p>
9	<p>＜新規ビジネス機会の可能性＞ 今後、国内外のサプライチェーンの再構築が進むと思われるが、新たなビジネス機会につながるのではないか。</p>	<p>国際間分業体制の見直しが進む中、医薬や一般産業で海外生産を国内生産に切り替える国内回帰の動きが出始めており、政府も民間の動きを後押しする動きがある。また、新型コロナウイルス感染症拡大の対策として非接触型での業務遂行が進む中、リモートエンジニアリングへのニーズが高まっている。エンジニアリング会社のビジネス機会は増えるとみており、当社はこういった分野でファーストランナーを目指していく。</p>
10	<p>＜業績予想＞ 本年度の業績予想を未定としている理由は。受注残は8千億円あり、新規受注が遅れるとしても、今期業績への貢献は限定的なはず。それでも、業績予想を未定としているのは、遂行中案件でさらなる遅れなどのリスクが発生するために、未定としているのか。</p>	<p>遂行中案件の工事は続行しており、採算のさらなる悪化などは予定していない。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大は既存案件の工期、コストに影響を及ぼしており、原油・ガス価格の下落は新規受注の不透明さを助長していることから、先行きを合理的に見通すことが困難であるため、業績予想は未定としている。</p> <p>新規受注が本年度業績に及ぼす影響は限定的であるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がどうなるかを合理的に見通せるようになるまで、業績予想の公表は控えたほうがよいと考え、未定としている。</p>
11	<p>＜減資＞ 減資により累積損失は一掃される一</p>	<p>減資は無償で、資本の部における勘定間の振替</p>

	質問	回答
	方、資金繰りや融資枠確保などへの影響はどうか。	処理であるため、資金的な問題は生じない。融資に際して企業の信用力は純資産をみて判断されることが多いが、純資産の額は不変なので、今後の資金調達面においても影響はない。資金繰りについては、三菱商事からの融資枠 900 億円を備えとして確保している。新たな資金調達は計画していない。
12	＜東証二部配置換え＞ 昨年の東証二部への配置換えについてどんな影響があり、今後をどう考えているのか。	昨年東証二部に配置換え後も、お取引先のご支援を頂くことが出来、再生に向けて取り組みを着実に進めることが出来ており、早期の一部復帰を目指して取り組んでいる。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。
従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。